

## 耐火れんがの品質の規定 2

今回の技術資料 (No.17) は前回の続きで耐火れんがの品質の規定を簡略に説明します。

### 4. 荷重軟化点 JIS R2209 : 2007

荷重下における耐火れんがの荷重軟化点の試験方法について規定する。  
測定した変化の最高点の温度をT1、T1から2%圧縮した温度をT2、20%圧縮した温度T3を試験結果とする。(図1)  
この「荷重軟化点T2」は一般的に耐火物の選定条件とされ、耐火度SKより優先する条件として用いられることが多い。

図1 荷重軟化曲線

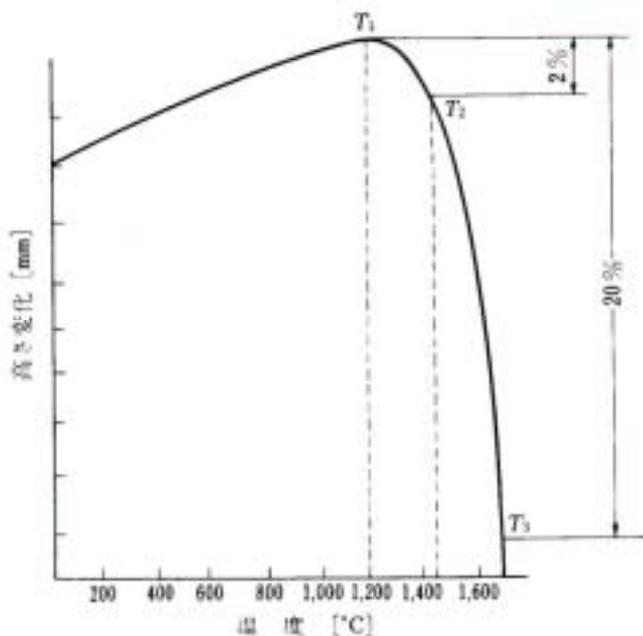
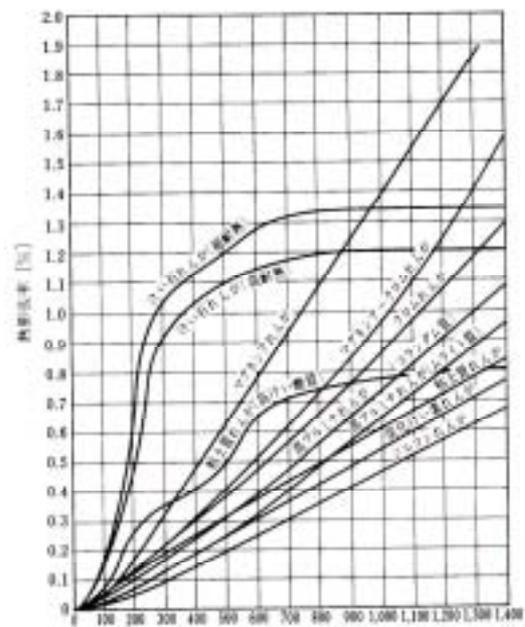


図2 熱膨張率



### 5. 残存寸法変化率 JIS R2208 : 1998

角柱または円柱の耐火れんがの試験片を乾燥後長さまたは容積を測定する。規定された昇温時間で所定の温度まで加熱し保持する。室温まで冷却した後試験片の測定を行い、残存線変化率または容積変化率を計算する。

### 6. 線熱膨張率 JIS R2207 : 2007

試験片を規定の速度で加熱して試験片の寸法変化量を接触、非接触測定器で連続的に測定して線熱膨張率、膨張率曲線、線膨張係数を求める。(図2)